

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	834 公民館管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
		目	05	公民館費
基本 施策	33 だれもが生きがいを持つ機会をつくる	細目	443	公民館費
		細々目	01	公民館管理経費
行革大綱の重点事項番号		1		
担当部課	コード	451400		担当者
	名称	いがまち公民館		氏名
		中 義晴	連絡先	45-9122 444

対象(誰を、何を)、成果(どうする)、根拠法令・要綱等、開始年度/平成/年度/関連事業、終了年度/平成/年度

対象(誰を、何を)	いがまち公民館並びに図書室を利用する市民	※対象件数
成果(どうする)	社会教育・生涯学習の機会を提供し、参加してもらうこと。また、活動する場として利用してもらうことによって、社会教育、生涯学習に対する活動意欲が高まることになる。	
根拠法令・要綱等	社会教育法、伊賀市公民館条例	
開始年度/平成/年度	関連事業	
終了年度/平成/年度		
H21 事業 内容	施設の維持・整備についての施設管理経費の執行 公民館教室等の公民館事業の執行 青少年育成事業や文化祭・展覧会の取組 市民やサークル団体の活動場所の提供 図書サービスの実施(図書の貸出、図書の購入、巡回図書の実施)	
社会情勢 の変化等	生涯学習の活動の場として地域市民に深く溶け込んでいるが、老化に伴い、毎年修繕箇所が出来てきている。また、図書室については狭小スペースであるため、図書室には蔵書数の半分も収容されていない。図書室以外の場所にある図書の整備が望まれる。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)		運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

活動指標、成果指標

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
移動図書巡回	箇所	箇所	目標 16	目標 16	15	15
			実績 16	実績 15		
図書購入	冊	冊	目標 380	目標 380	350	350
			実績 395	実績 343		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
公民館利用者数	文化振興のひとつのパロメーター(地区市民センターへの利用者が増えている)	人	目標 14000	目標 14000	13000	13000	
			実績 11640	実績 12090			
図書室利用者数(巡回図書含む)	文化振興のひとつのパロメーター(図書室の拡充・整備により利用者が増える)	人	目標 3500	目標 3500	2500	2500	
			実績 2491	実績 1966			

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	8,079	6,937	10,350	7,843				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	8,079	6,937	10,350	7,843				
事業投入人件費(B)	3.0人 21,600	3.0人 21,600	3.0人 21,600	3.0人 21,600				
フルコスト(A)+(B)	29,679	28,537	31,950	29,443				

判断の基準(該当項目に○をつけてください)、備考欄(特記事項)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)	
法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○	
市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○	
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効 達成 率	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○ ○ ○
達成 率	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

改善策	公民館施設は老朽化してきているので修理が必要など出てきている。、図書室については収容スペースが狭く、所有している蔵書の半分以下しか収容できない。図書室の増築までは無理としても、現在別のところにある本についてはパーティションや本棚を設置し、市民が利用しやすい図書環境の整備が望まれる。
昨年度の取組状況	【詳細】 計画のとおり進んでいる 検討していたが、図書情報システムに伴う蔵書のマーク化をしていくことが優先されて実施できなかった。H22年～23年度で図書の整理を進めていながら、図書環境の整備に努めたい。

担当課長氏名、事業の方向性

担当課長氏名	中 義晴
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 図書情報システム事業を実施していくにあたり、現在所有している蔵書約20000冊の内、13000冊を選定し、マーク化し、電算登録していくための作業を行っている。
現時点における課題、その他	予算的に限られた冊数しかマーク化できない。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	残りの約7,000冊については、全部とはいかないまでも必要とする図書についてはマーク化が必要。来年度以降についても、新規図書購入分については、マーク化に対する予算を確保したい。H23年度は電算機器を導入しLAN工事を行い、図書情報システムによる貸出しの稼働を予定している。